

房総の

文化財

VOL. 53



ISSN 0919-0848
Boso-no-bunkazai

平成26年1月24日 公益財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811 (代) FAX 043-424-4811

http://www.echiba.org/bunkazai_top.html



平成25年8月8日(木)に開催した市川市雷下遺跡見学会の様子です。

厳しい暑さにもかかわらず、多くの見学者がありました。



市川市雷下遺跡
の調査地点
オレンジ色のネットで
囲まれた部分が
調査の範囲です。

contents

発掘調査速報

- 市川市雷下遺跡
- 柏市小山台遺跡
- 酒々井町飯積原山遺跡

お知らせ

- 平成25年度物井地区展
- 平成25年度講演会



▲発掘調査のようす

雷下遺跡は、市川市北西部の国分台と呼ばれる標高25mほどの台地東側に接する標高0m～2mの低地につくられた縄文時代早期の貝塚を中心とした遺跡です。この頃は、温暖化による縄文海進によって、当時の海岸線が現在の内陸部まで進入していたことが想定されています。今回発見された貝層は、当時の海岸線付近に形成された貝塚の一部と考えられます。

この貝塚から出土した土器は、約7,000年前の縄文時代早期の終わりごろにつくられた「条痕文土器」が主体です。出土した土器には、これ以外の時期の土器がほとんど見られないことから、この貝塚もこの頃に形成されたものと考えられます。



▲人骨頭蓋骨（左：下顎、右：頭頂）

雷下遺跡では、現状で5地点から人骨が見つかっています。いずれも全身骨格のうちの一部分のみで、頭蓋骨、下顎骨、大腿骨が出土しています。縄文時代早期の人骨の調査例は、県内5例目です。



▲貝の堆積状況

貝層を構成する貝種は、ハイガイを中心としてハマグリ、マガキ、アカニシなどがみられます。ハイガイは現在では伊勢湾より南の方にしか生息していない温暖種ですが、縄文時代早期～前期にかけては縄文海進にともない東日本一帯に生息していました。当時の気候温暖化を裏付ける特徴的な貝といえます。

貝層は、大きく8層に分けられますが、構成する貝種には大きな変化がないようです。



▲貯蔵穴のようす

北側では、貝層を掘り込んだ貯蔵穴が検出されています。直径40cm～50cm・深さ10cm～15cmの小型の貯蔵穴ですが、内部にはドングリ＝堅果類（ナラガシワ）がぎっしりと詰め込まれていました。



▲鹿角の出土状況

鹿角は、先端が平坦になっています。おそらく、何らかの製品を作るための部材として先端部が切り取られ、その残りが捨てられたと思われる。



▲出土した獣骨類

貝塚からはたくさんの骨が出土しています。その多くが哺乳類で、その他に魚類や鳥類などもみられます。哺乳類の中ではニホンジカが圧倒的に多く、次いでイノシシ、小動物ではタヌキなども出土しており、当時の重要な食料源であったことがわかります。

柏市小山台遺跡

小山台遺跡は、柏市北東部の利根川右岸に面する標高17mほどの台地上に位置しています。この遺跡は、平成11年度から調査が断続的に行われ、現在55次調査が終了しました。これまでの調査

により、縄文時代中期（約4,000年～5,000年前）の大規模な環状集落が複数存在することが確認されています。

今回は、平成25年度に調査を行った54次調査と55次調査をご紹介します。

54次調査



▲調査された遺構の全景



▲袋状土坑と縄文土器の出土状況

袋状土坑から見つかった縄文土器の出土状況です。

袋状土坑とは、底が上面より広くなり、全体的にフラスコに近い形状となることから、フラスコ状ピットとも呼ばれています。用途としては、食料等の貯蔵に使われたのではないかと考えられています。



▲縄文時代中期の竪穴住居跡



▲縄文土器で囲まれた炉

中央の縄文土器が残っている部分が土器囲い炉です。地面を掘り込んだ穴の壁に沿って、縄文土器の口縁部や胴部を二重に巡らしています。

底面が火を受けて赤く変色していることから、調理などの炉として使われていたことが分かります。

55次調査



▲発掘調査のようす



▲調査された遺構の全景

55次の調査は、対象面積2,719㎡で、調査地点が3か所に分かれています。最も広い面積の畑地部分の調査では、竪穴住居跡や袋状土坑、小竪穴などが密集した状態で発見されています。



縄文時代中期の竪穴住居跡です。中央に赤く見えるのが炉で、周囲に柱を立てた穴がみえます。



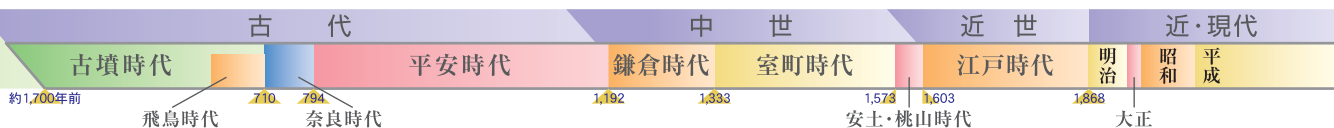
住居床面に設置された土器囲い炉です。手前の土器がない部分が焚（たき）口と思われます。



竪穴住居跡内から発見された縄文土器の出土状況です。深鉢や浅鉢などが1か所にまとまっていました。

AD (紀元後)

時代



飯積原山遺跡は、印旛沼に注ぐ高崎川中流の標高37m前後の台地上にあり、酒々井プレミアム・アウトレットの東隣に位置しています。2万㎡を超える広大な面積が調査対象となり、縄文時代中期（約4,000年～5,000年前）の数多くの竪穴住居跡や土坑などが密集した状態で発見されました。



▲2段に掘り込まれた長方形の住居跡



▲土器で囲まれた炉

縄文時代中期の竪穴住居跡は、径6mほどの円形あるいは楕円形の平面形をするものがほとんどですが、なかには長方形のものも数軒確認されています。



▲縄文時代の土偶（左：正面、右：上から）



▲発掘調査の風景

土坑から発見された土偶です。現在までのところ、土偶はこの1点のみで、この遺跡では非常に珍しい資料です。

顔の表情や環状に作られた頭部など、土偶の中でもほとんど例のない特異なものです。

お知らせ

◆展示会「いにしえの世界－四街道市物井地区の発掘ものがたり－」

昭和59年から発掘調査を開始した四街道市物井地区では、約3万2千年前の旧石器時代の大規模な石器群や約1,500～1,400年前の古墳から発見された四街道市内唯一の埴輪や金銅装の大刀など、貴重な文化財が見つかっています。

そこで、これまでの調査の成果を多くの皆様に御紹介したく、地元、四街道市内で展示会を開催することとなりました。実物資料や解説パネル等により分かりやすく展示いたします。

- 期 間・・・平成26年1月28日(火)～2月9日(日) 午前9時から午後6時まで 月曜日は休館 2月9日は午後5時まで
- 場 所・・・四街道市役所第二庁舎 市民ギャラリー 四街道市鹿渡2001-10 TEL 043-424-8934
- 見学料・・・無料

◆講演会「いにしえの世界－四街道市物井地区の歴史をさぐる－」

- 日 時・・・平成26年2月1日(土) 午後1時30分～4時まで（受付：午後1時から）
- 場 所・・・四街道市文化センター301・302室（3階）
- 入場料・・・無料
- 定 員・・・先着150名まで
- 講 演

- ①「最古のハイテク（石器製作）と旧石器人のライフスタイル」－旧石器時代－
（公財）千葉県教育振興財団／橋本 勝雄
- ②「物井の古墳」
（公財）千葉県教育振興財団／白井 久美子
- ③「下総国千葉郡物部郷と小屋ノ内遺跡」
（公財）千葉県教育振興財団／糸川 道行

－古墳時代－
－奈良・平安時代－

四街道市文化センター案内図

